

「葦」第45号発刊に寄せて

奈良県立医科大学附属病院

病院長 古家 仁

奈良県立医科大学附属病院看護部における看護研究誌「葦」第45号が発刊される運びとなりました。平成26年度に院内、院外で発表された看護研究・実践報告をまとめて掲載する予定です。

日々看護業務に就いている看護師が臨床の現場で看護研究をすることはかなり強い興味、意欲がないとできないと思います。日常の業務はおろそかにはできない。かといって研究もしなければならない。大変なことだと思います。さらに現場は最近とくに忙しくなってきたと思います。しかし看護研究はその忙しい中でも可能です。とくに昨年から行っているプロジェクトは看護研究の大きな題材を含んでいます。昨年から病院の方針として無駄を省いて効率的な運用をする必要がある。という基本的な考え方から業務を見直し、重点的な病院運営を行うためにいろいろなプロジェクトを開始しました。このプロジェクトは医師だけでなく看護師や他の医療職すべてが参加する必要があるプロジェクトです。もともと今までに雑然と整理されずに行われていた業務をわかりやすい、活動しやすい、意見を言いやすいように組み替えました。当初は7本、現在は8本の柱として、それを中心に病院の運営を行うことが主眼となっています。ここで簡単に8つのプロジェクトを書いております。1. 保険診療、2. 外来診療、3. 入院診療、4. 医療材料、5. 手術・病病連携、6. 医療安全・質評価・教育、7. がん診療、8. 救急医療、この8つのプロジェクトです。すべてに看護師も関わる必要があり、実際に大きく関わっています。一番わかりやすいのは入院診療だと思いますが、このプロジェクトは病棟の稼働率を上げる、共用病床を有効に運用するなど、看護師が中心となるプロジェクトです。入院期間を考えながら医師と相談して患者の入院から退院までの流れの中で看護することも重要です。また、医療安全・質評価・教育プロジェクトでは、今年度はTQM活動を行います。多くの部門からの参加がありましたがそれぞれの所属で取り組んでいる活動を積極的に行っていただくための活動です。看護研究にも通じます。医療安全も看護師が深く関わらなければならない役割です。こういったプロジェクトに看護師が積極的に関わり、そしてその内容を深めること、その過程が看護研究にもつながると思います。

前号にも書きましたが、最後に論文発表の方法をきちっとしてください。書き方にはいろいろなバリエーションがあるかもしれませんが、基本は、序、目的、方法、結果、考察、結論、文献、図表です。そして文献の書き方も一定です。掲載する著者の数、掲載年やページの順番、巻だけなのか号も書くのか、など投稿する雑誌によって異なる場合があります。注意が必要です。この機関誌「葦」でも投稿規定を決めるべきだと思います。

今回の看護研究・実践報告において、日々忙しい看護活動の中にあって意義深い論文がたくさん出されるのを楽しみにしています。